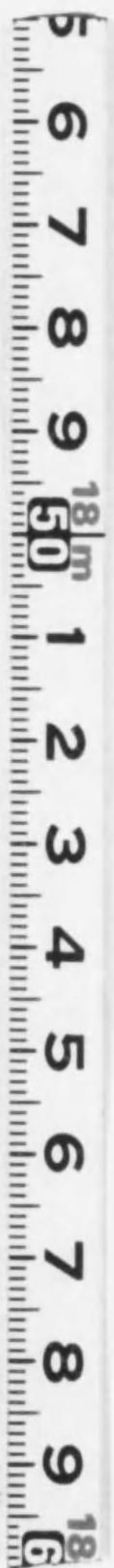


鳴鶴先生詩話孫子進書

特257

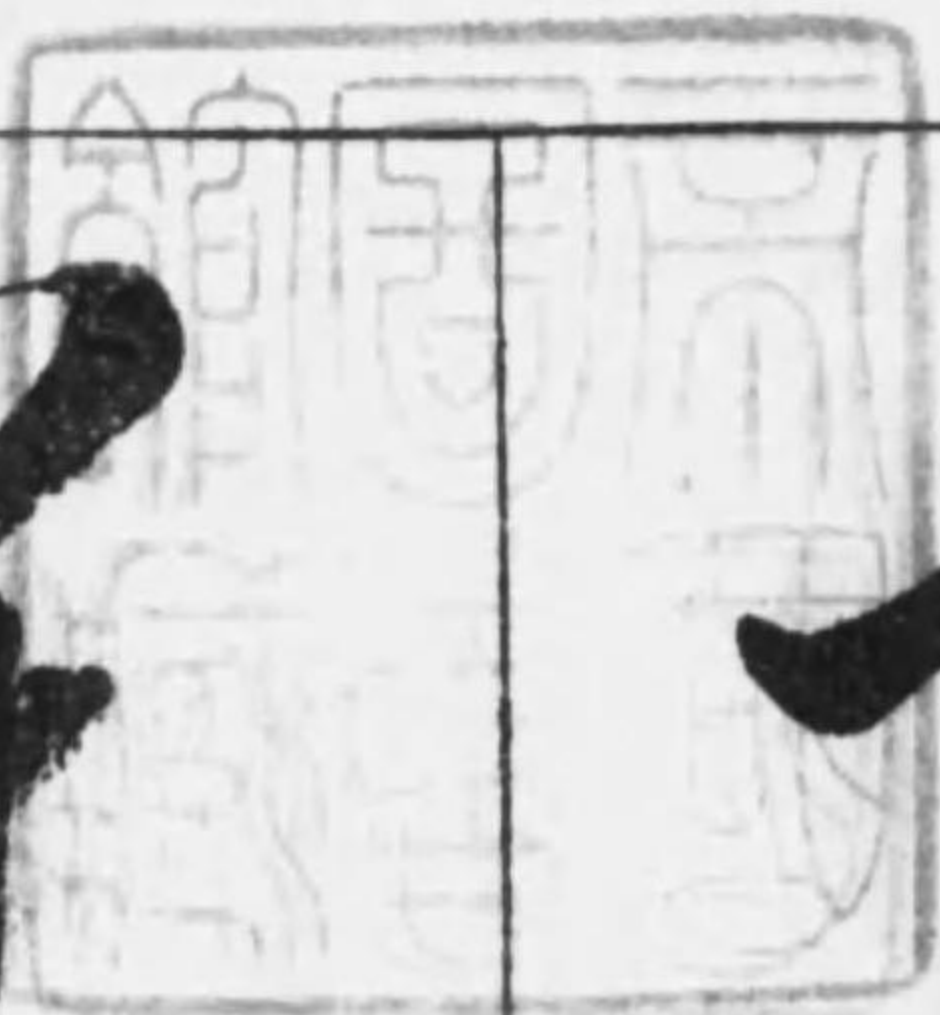
298



始



古田古之  
筆心書者



道生魏子

鍾張之

名末柯

二五之妙

王若水之

云  
以  
日  
也

書  
鐘  
張

信  
如  
紀  
從

今之世  
之世

親  
鐘  
子

而  
以  
家  
然

延  
之  
又  
云

五  
五  
五  
五  
五

鐘  
鐘  
鐘  
鐘  
鐘

笛  
欵  
欵

或  
或  
或  
或  
或

陸子 從

尚 翁 行

然 陸 精 熟

沈 水 書 之 畫

人之宜道人說

之義如此未

必何之也

乃能道



鍾張之絶也



釋文

夫自古之善書者。漢魏有鍾張之絶。晋末稱二王之妙。王羲之云。頃尋諸名書。鍾張信爲絶倫。其餘不足觀。可謂鍾張云没而羲獻繼之。又云。吾書比之鍾張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當雁行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耽之若此。未必謝之。此乃推張邁鍾之意也。

夫れ古より書を善くする者。漢魏に鍾張の絶有り。晋末に二王の妙を稱す。王羲之曰く。頃諸名書を尋ねるに、鍾張は信に絶倫と爲し、其餘は觀るに足らず。謂ふ可し鍾張云に没して羲獻之に繼ぐと。又云ふ。吾が書之を鍾張に比ぶれば、鍾は當に抗行すべし。或は謂らく之に過ぐと。張が草には猶當に雁行すべし。然して張は精熟して池水盡く墨となる。假令寡人之に耽ること、此の若くならば、未だ必ずしも之に謝らず。此れ乃ち張を推し鍾より邁れたりとするの意なり。

○鍾張は魏の鍾繇（字は元常）と後漢の張芝（字は伯英）

○羲獻は晋の王羲之（字は逸少）と其の子王獻之（字は子敬）

▲缺字のあるのは、原本（薛氏本）の缺けてゐる字を臨書しなかつたのである。

鍾張之絶也



釋文

夫自古之善書者。漢魏有鍾張之絶。晋末稱二王之妙。王羲之云。頃尋諸名書。鍾張信爲絶倫。其餘不足觀。可謂鍾張云没而羲獻繼之。又云。吾書比之鍾張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當雁行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耽之若此。未必謝之。此乃推張邁鍾之意也。

夫れ古より書を善くする者。漢魏に鍾張の絶有り。晋末に二王の妙を稱す。王羲之曰く。頃尋諸名書を尋ぬるに、鍾張は信に絶倫と爲し、其餘は觀るに足らず。謂ふ可し鍾張云に没して羲獻之に繼ぐと。又云ふ。吾が書之を鍾張に比ぶれば、鍾は當に抗行すべし。或は謂らく之に過ぐと。張が草には猶當に雁行すべし。然して張は精熟して池水盡く墨となる。假令寡人之に耽ること、此の若くならば、未だ必ずしも之に謝らず。此れ乃ち張を推し鍾より邁れたりとするの意なり。

○鍾張は魏の鍾繇（字は元常）と後漢の張芝（字は伯英）

○羲獻は晋の王羲之（字は逸少）と其の子王獻之（字は子敬）

▲缺字のあるのは、原本（薛氏本）の缺けてゐる字を臨書しなかつたのである。

昭和十年一月十五日印刷  
昭和十年一月二十日發行

鳴鶴先生臨孫過庭書譜  
定價四拾錢

不復  
許製

編輯兼  
發行人 吉田茂松

印刷人 菅生定祥

發行所

東京市麻布區本村町百十六番地  
電話高輪(四)四六五二番  
振替東京四八九四一番

書道研究會

終

